

2016 年 6 月 20 日 全 5 頁

中国：豚肉価格上昇と環境保護強化

侮ってはいけない豚肉価格高騰の影響だが、そろそろピークか

経済調査部
主席研究員 齋藤 尚登

[要約]

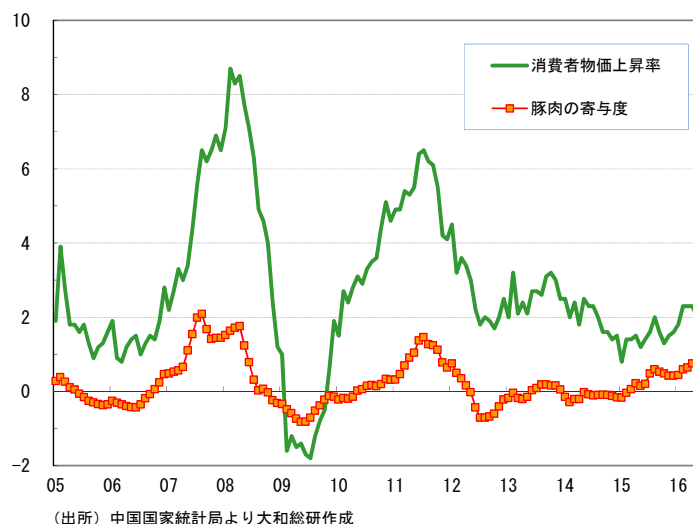
- 豚肉の消費者物価構成ウエイトは 2.3%程度であるが、侮ってはいけない。豚肉は価格変動が極めて大きく、物価全体への影響は軽視できない。2016 年 5 月の豚肉価格は前年同月比 33.6%上昇し、同 2.0%の上昇となった消費者物価を 0.8%ポイント押し上げている。
- 豚肉と飼料の価格比は 6（豚肉）：1（飼料）が養豚業者の損益分岐点であり、これを上回るほど利益が増加し、下回るほど赤字が増加するとされる。2014 年 1 月から 2015 年 5 月には価格比が 6 を下回り、養豚業者は赤字経営を余儀なくされ、規模を縮小したり、養豚をやめる業者が増加した。2013 年に 5,000 万頭前後だった繁殖用母豚の飼育頭数は、2014 年に入ると減少し、2016 年 5 月には 3,762 万頭となった。繁殖用母豚の補充から交配・出産・肥育には 12 ヶ月程度が必要とされ、少なくとも今後 1 年は豚肉の供給増加は期待し難い。
- 豚肉価格上昇を背景に、価格比は 2015 年 6 月に 6 を回復し、2016 年 5 月には 11 へ上昇した。通常であれば、もっと早い段階で繁殖用母豚の飼育頭数が増加してもよいのだが、今回は減少が長期化している。これには、環境保護を重視する習近平政権が、2014 年以降、重要な水源地とその周辺での養豚を禁止したほか、業者に対して糞の処理設備の設置を求めたことで、零細業者を中心に廃業が相次いだことが影響しているとの指摘がある。
- 豚肉価格高騰による消費者物価上昇は、実質消費の下押し要因となる。豚肉価格上昇は少なくとも今後 12 ヶ月程度は続く可能性が高いが、上昇率はそろそろピークを迎えてもおかしくはない。繁殖用母豚の飼育頭数（前年同月比）を 12 ヶ月先行させたものと豚肉価格（同）は反比例し、前者の減少率は 2015 年前半（12 ヶ月先行で 2016 年前半）が最大であり、その後、減少率は縮小している。豚肉価格上昇率がピークアウトしていけば、物価上昇圧力が低減し、実質消費には追い風となろう。
- 最後にもう一つ指摘したいのは、環境保護は政策として極めて重要であるが、それを遂行するに当たっては周到な準備や細やかな配慮が必要であるということだ。例えば、環境保護政策によって零細業者の豚肉生産量減少が想定されるのであれば、養豚の大規模経営を推進するなどの対策を講じておくべきであったであろう。政策対応が後手に回ると負の影響はより大きくなってしまふのである。

侮ってはいけない豚肉価格高騰の影響

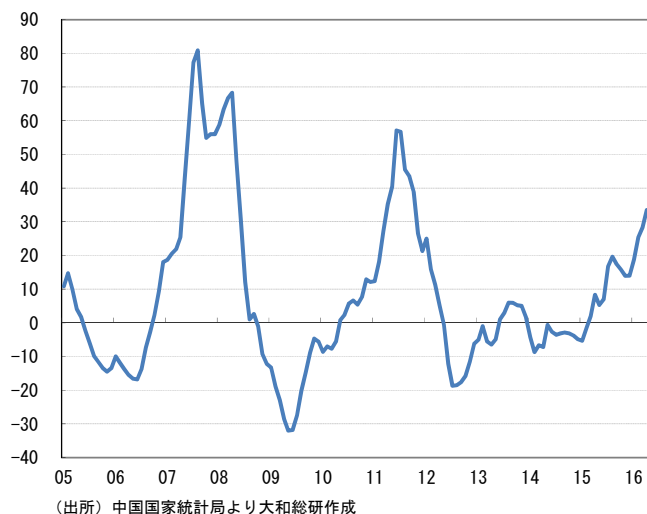
2016年1月～5月の消費者物価上昇率は前年同期比2.1%と、2015年の前年比1.4%から伸びが加速した。主因のひとつが豚肉価格の高騰であり、消費者物価全体を0.6%ポイント押し上げた。5月単月の豚肉価格は前年同月比33.6%上昇し、同2.0%の上昇となった消費者物価を0.8%ポイント押し上げている。

現在、豚肉の消費者物価構成ウエイトは2.3%程度であるが、侮ってはいけない。豚肉は価格変動が極めて大きく、物価全体への影響は軽視できない。統計が入手可能な2005年1月以降では、2007年8月に前年同月比80.9%の上昇を記録し、同6.5%上昇であった消費者物価を2.1%ポイント押し上げた。逆も然りであり、豚肉価格は2009年5月には同32.0%下落し、同1.4%下落した消費者物価を0.8%ポイント押し下げた。

消費者物価上昇率と豚肉の寄与度（単位：%、%ポイント）



豚肉の価格推移（前年同月比）（単位：%）



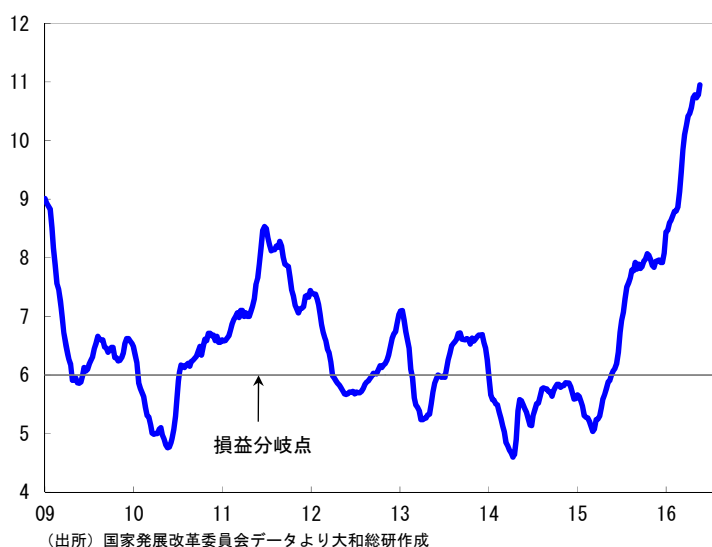
この大きな価格変動は、主に供給の増減によってもたらされる。国家発展改革委員会によると、豚肉と飼料の価格比は、6（豚肉）：1（飼料）が養豚業者の損益分岐点であり、これを上回るほど利益が増加し、下回るほど赤字が増加するとされる。2014年1月から2015年5月にかけては価格比が6を下回り、養豚業者は赤字経営を余儀なくされ、規模を縮小したり、養豚をやめてしまう業者が増加した。2013年に5,000万頭前後で推移していた繁殖用母豚の飼育頭数は、2014年に入ると減少し、2016年5月には3,762万頭となった。さらには、零細業者が多いことが供給の増減とそれに伴う価格変動をより大きくしている。2015年末の豚の飼育頭数は4億5,112.5万頭であるが、養豚拠点はおよそ6,700万ヵ所とされ、拠点当たりでは7頭に満たない。零細業者の意思決定は速く、価格次第でフレキシブルな撤退・（再）参入、規模縮小・拡大が行われていたのである。

豚肉価格上昇期間は長期化へ

供給不足による豚肉価格上昇を背景に、価格比は2015年6月に6を回復し、その後の価格急上昇に伴い、直近2016年5月の価格比は11へと大きく上昇した¹。一方で急減していた繁殖用母豚の飼育頭数は下げ止まりつつあるものの、明確な回復は未だ確認できない。繁殖用母豚の補充から交配・出産・肥育には12ヵ月程度が必要とされるため、少なくとも今後1年は豚肉の供給増加は期待し難いことになる。

通常であれば、もっと早い段階で繁殖用母豚の飼育頭数が増加してもおかしくはないのだが、そうならないのは、環境保護を重視する習近平政権が、2014年以降、重要な水源地とその周辺での養豚を禁止したほか、養豚業者に対して糞の処理設備の設置を求めたことで、零細業

豚肉と飼料の価格比の推移（単位：倍）



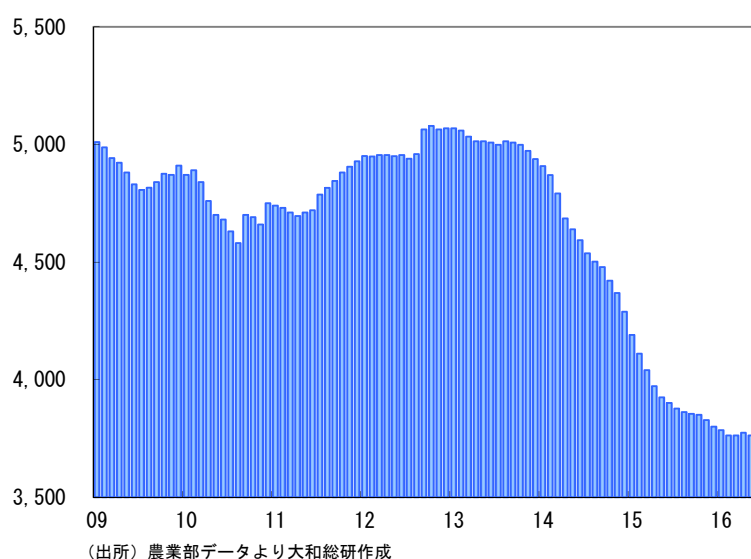
¹ 加えて飼料価格の低下もある。

者を中心に廃業が相次いだことが影響しているとの指摘がある。環境対策の強化で零細業者の（再）参入が阻害され、価格による生産量調整機能が働きにくくなったのである。

中国政府は豚肉価格高騰に無策であったわけではない。中国には冷凍豚肉の備蓄制度があり、価格比が 8.5 を超えると備蓄の放出を開始し、9.0、9.5 を節目に放出量を増やすとしている²。現地報道によると、昨年 12 月に備蓄の放出を開始し、これまでに 20 万トン程度が放出されたとみられる。また、2016 年に入ると豚肉の輸入は前年比倍増のペースで増加し、1 月～3 月は 28.6 万トンとなった³。一方で、1 月～3 月の国内生産量は前年同期比 5.9%減の 1,466 万トンであり、約 92 万トン減少している。国内生産の減少分は、備蓄放出と輸入では賄い切れていない。

豚肉の輸入を大胆に増やせばよい、との指摘もあるが、中国の 2015 年の生産量 5,486.5 万トン（世界生産量の 45%程度）に対して、世界の輸出量は 721 万トンであり、中国が輸入を大きく増やすには限度がある。仮に世界の豚肉の輸出能力が高まったとして、豚肉の輸入価格は国内価格の半分程度であり、中国が輸入依存度を大きく高めると国内の養豚業者は壊滅的な打撃を受ける可能性が高くなる。それをよしとしないのであれば、輸入増加はあくまでも補助的な対策と位置付けられよう。

1 年後の豚肉の供給量を左右する繁殖用母豚の飼育頭数の推移（単位：万頭）



豚肉価格の今後の動向とインプリケーション

豚肉価格高騰による消費者物価上昇は、実質消費の下押し要因となる。既述したように、豚肉の上昇局面は少なくとも今後 12 ヶ月程度は続く可能性が高いが、上昇率はそろそろピークを

² 価格比が 6 : 1 を下回る場合は冷凍豚肉の備蓄を開始する。

³ 1 月～4 月は 40.5 万トン。

迎えてもおかしくはない。下図のように、繁殖用母豚の飼育頭数（前年同月比）を12ヵ月先行させたものと豚肉価格（同）は反比例する。前者の減少率は2015年前半が最大であり（12ヵ月先行させたグラフでは2016年前半）、その後、減少率は縮小している。豚肉価格上昇率がピークアウトしていけば、物価上昇圧力が低減し、実質消費には追い風となろう。

最後にもう一つ指摘したいは、環境保護は政策として極めて重要であるが、それを遂行するに当たっては周到な準備やより細やかな配慮が必要であるということだ。水源地やその周辺での養豚を全面的に禁止し、同地域以外では糞の処理設備の設置を求めるのは正しい。しかし、環境保護政策によって零細業者の豚肉生産量減少が想定されるのであれば、養豚の大規模経営化をしっかりと事前に推進するなどの対策を講じておくべきであったであろう。政策対応が後手に回ると負の影響はより大きくなってしまうのである。

繁殖用母豚飼育頭数（12ヵ月先行）と豚肉価格上昇率の推移（前年同月比）（単位：％）

